

協会
紙パ
技総

変化に乗り遅れず

新理事長に山崎和文氏
三賞、佐々木賞贈呈式

(東京通信) 紙パルプ技術協会(小関良樹理事長・王子HD)は六日、東京・銀座の紙パルプ会館で第七一回定時総会を開催した。役員改選では山崎和文日本製紙副社長を新理事長に選任、副理事長と専務理事は留任した。

小関理事長は実質GDP二次速報など国内経済に触れ「マイナス成長は一時的なもの」と述べ、円高や原油価格の上昇など海外動向には「引き続き注

意が必要」とした。「紙パ業界では比較的好調なパッケージ分野や家庭紙分野への進出、CNFなど新素材の事業化に向けた取り組みが盛んで大きく変わろうとしている。国の『未来投資戦略

二〇一八』ではIoT、ロボット、AIなどの技術をあらゆる産業・社会生活に取り入れることを掲げている。これにより一部の作業がロボットに代わり、設備管理もセンサーと解析技術の向上で人手不足の解消、コスト削減に繋がる。また今後、働き方改革の関係法整備が検討されており、雇用や勤務形態、国民生活まで変わろうとしている。業

界が生き残っていくためにはその動きに乗り遅れないことが必要」と話した。続けて「昨年は協会創立七〇周年、六〇回目の年次大会を開催した。日本の紙パ市場や技術は長い年月をかけて拡大・進歩してきた。これからは変化のスピードが非常に速くなる。今年の年次大会ではIoTとCNFに加え、家庭紙のセッションを準備している。また来年六月にはTAPP

総会終了後、三賞と「佐々木賞」の贈呈式を行った。「藤原賞」は松尾洋二(王子製紙元副社長)、「大川賞」は鈴木晋一(三菱製紙元常務)、「佐伯賞」は梅原淳(特種東海製紙元専務)の各氏が、「佐々木賞」は相川鉄工と大善が受賞した。また平成二十九年度の「紙パルプ技術協会賞及び印刷朝陽会賞」も発表した。

「紙パルプ技術協会賞・印刷朝陽会賞」受賞報文および受賞者は次の通り。ともに十月四日開催の年次大会で贈呈する。

▽「近赤外分光法を用いた紙中の木材パルプの複合的評価手法の開発」静岡県工業技術研究所富士工業技術支援センター・河部千香、深沢博之。名古屋大学・稲垣哲也、土川覚▽「塗布・製紙工程の流動シミュレーション」MPM数値解析センター安原賢。敬称略。

常にはTAPP



【写真上】三賞受賞者=前列右から梅原淳(佐伯賞)松尾洋二(藤原賞)鈴木晋一(大川賞)各氏
【写真下】佐々木賞受賞者=前列右・井出文史(大善)前列左・梶山宗助(相川鉄工)各氏